



板橋区立中央図書館基本構想



板橋区教育委員会

はじめに

板橋区立中央図書館は、昭和 45 年に開設し、施設、設備の老朽化が進み、エレベーターの設置もないなどユニバーサルデザインにも対応していない施設です。また、情報化、グローバル化、少子・高齢化などの社会状況の変化のなかで、図書館は、多様な区民ニーズに対応し、区民の課題解決を支援する図書資料の充実や ICT 化への対応など新たな図書館サービスを提供することが求められています。とりわけ、板橋区立図書館全館をリードする役割をもつ板橋区立中央図書館は、未来を展望し、区民の皆様の生涯の学びを支える生涯学習施設として、また、板橋区及び地域の活性化に資する文化施設として、早急に整備する必要があります。

そこで、板橋区教育委員会では、新たな中央図書館の整備に向けて、学識経験者や図書館司書代表、区民・利用者代表、学校関係者などを委員とした中央図書館基本構想検討会を設置し、基本構想の検討を進め、図書館利用者や公募委員で構成した区民懇談会や区民説明会における区民の方々からのご意見をいただきながら、このたび、「板橋区立中央図書館基本構想」を策定いたしました。

この「中央図書館基本構想」では、基本理念を「未来をはぐくみ、こころの豊かさと新しい価値を創造し、“緑と文化”を象徴する図書館」と定めています。新たな中央図書館は子どもや青少年の未来をはぐくむ読書・学習環境の整備や支援、幅広い世代の区民が、読書を通じた様々な活動により、こころの豊かさを深めることを支援し、図書の資料や相談により区民の皆様が様々な課題を解決し、新たな価値を創造できる場としています。さらに、心地よい環境のなかで、世代をこえて様々な交流ができる場を提供する、魅力的な施設を目指すこととしています。

今後、この「中央図書館基本構想」の基本理念に基づき、具体的な図書館サービスの内容を検討し、図書館をご利用いただく皆様の期待に応えられる新たな中央図書館を整備してまいります。区立図書館の中心館として、図書資料の充実はもとより、心地よい環境のなかでの読書やイベントへの参加を通じて、区民の皆様の多様な交流を進め、板橋区独自の魅力を区内外に発信する施設として中央図書館を整備してまいります。

どうぞ、これからの新たな中央図書館の建設及び運営等にご理解、ご協力賜われますようお願いいたします。

結びに、基本構想策定にあたり、ご尽力くださいました「中央図書館基本構想検討会」並びに「中央図書館区民懇談会」の委員の皆様をはじめ、区民アンケート調査にご協力いただいた皆様、「基本構想案」にご意見をお寄せいただいた多くの区民の皆様に、心から御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

板橋区教育委員会
教育長 中川 修一

目 次

1. これまでの検討の経緯

- (1) 本検討の目的 2
- (2) これまでの検討の経緯..... 2

2. 板橋区立図書館の現状と課題

- (1) 板橋区立図書館の現状..... 6
- (2) 板橋区立図書館の課題..... 12

3. 新たな中央図書館について

- 3－1. 基本理念と重点テーマ..... 18
 - (1) 新たな中央図書館が目指すべき基本理念..... 19
 - (2) 新たな中央図書館における重点テーマ..... 21
 - (3) 今後充実すべき施策の年代層..... 23
 - (4) 地域図書館との関係性..... 24
- 3－2. 管理運営計画..... 27
 - (1) 管理運営の基本的な考え方..... 27
 - (2) 重点テーマ別実施事業..... 28
- 3－3. 施設整備計画..... 32
 - (1) 新たな中央図書館の立地..... 32
 - (2) 新たな中央図書館の特色となるエリア（機能・サービス） 33
 - (3) 新たな中央図書館のエリアと諸室の概要..... 34
 - (4) エリアの構成諸室と重点テーマの関係..... 45
 - (5) 蔵書計画 47
 - (6) 新たな中央図書館の施設規模面積..... 50
 - (7) 新たな中央図書館における諸室配置（ゾーニング）の考え方..... 51
- 3－4. 新たな中央図書館の実現に向けて..... 52
 - (1) 事業スケジュール..... 52
 - (2) 実現に向けた課題..... 52

参考資料

- 1. 中央図書館基本構想検討会について..... 54
- 2. 区民アンケート調査結果について..... 56
- 3. 中央図書館の改築等候補地検討について..... 98



1. これまでの検討の経緯

(1) 本検討の目的

板橋区立中央図書館は、昭和45年開設で、建設から45年経過し、施設、設備の老朽化が進み、エレベーターも設置されていないなど、ユニバーサルデザインにも対応していない施設であるため、早急に施設の整備をすることが求められている。また、今日、図書館は、区民の生活や仕事などで生じた様々な課題の解決を支援する図書館資料のレファレンス（調べ方案内）の充実やICT化への対応、学習スペースの確保など、新たな対応が求められている。

そこで、板橋区では、平成25年度「中央図書館機能のあり方検討会」の検討を経て、平成26年度は、「今後の中央図書館の施設等検討会」を設置し、今後の改築を見据え、施設規模の検証、中央図書館の改築場所の検討を行い、報告書を平成27年2月にとりまとめた。

これらの検討会の報告を踏まえ、今後の板橋区立中央図書館が担うべき機能と方向性を定め、今日的課題にも対応した区民の情報拠点である魅力ある施設として板橋区立中央図書館を整備するため、学識経験者、区民・利用者代表、学校関係者などを委員とした「中央図書館基本構想検討会」を平成27年6月に設置し「中央図書館基本構想」の検討を進めた。「基本構想」の検討にあたっては、区民や図書館利用者の意見を基本構想に反映するため、「区民懇談会」や「区民説明会」を実施し、これらの意見を検討会に報告しながら検討を行い、「中央図書館基本構想中間のまとめ」として、一定の方向性をとりまとめた。

このたび、「中間のまとめ」を公表し、パブリックコメント等でいただいた区民のご意見を踏まえ、さらに検討を行い、「板橋区立中央図書館基本構想」を策定した。

(2) これまでの検討の経緯

1) 「中央図書館機能あり方検討会」（平成25年度）

いたばし未来創造プランの「経営革新」編にある「中央図書館としての機能のあり方」について、板橋区の行政における「これからの図書館像」や「経営効率化の道筋」を検討するために、平成25年5月に「中央図書館機能のあり方検討会」を設置し、検討を行った。

検討の結果、中央図書館にのみ求められる「中央機能」と「地域図書館の役割」を明確にしたうえで、指定管理者の管理監督、図書館システムの運用、図書館行政を推進していくといった「中央機能」については、民間には移譲できない、区が主体となって責任を負うものとした。そのため、中央図書館については、「中央機能」を果たす必要性から区職員による運営を維持することとした。さらに、将来にわたり、区が図書館行政を継続させていくためには、区職員が図書館業務に精通し、地域図書館を指導していくことが不可欠で、地域図書館の業務に日常的

に参与できる体制が必要であることから、「中央機能」は、図書館内に置くこととした。

2) 「今後の中央図書館の施設等検討会」(平成26年度)

「中央図書館機能あり方検討会」の検討結果を受けて、平成26年度に「今後の中央図書館の施設等検討会」を設置し、中央図書館の改築場所及び施設規模の検討を行った。

検討会の結論としては、「板橋区立中央図書館の改築は新たな図書館サービスを提供する環境を構築し、地域図書館を含めた区立図書館全体のサービスをリードしていく絶好の機会である。中央図書館を区を中心図書館として運営していくためには、最低でも4,200㎡の面積は必要であり、さらなる魅力ある図書館づくりをするためには、5,000㎡以上の面積が必要となる。しかしながら、現在地での中央図書館の改築は、建築基準法等の関係から、現在の面積2,907㎡の半分以下の1,409㎡しか面積を確保できず、中央図書館として整備するのは困難である。そのため、中央図書館を移転して改築し、図書館利用者の多様なニーズに応える図書館づくりを進めていく」との結論に至った。

そして、移転候補地については、板橋区立図書館は、概ね半径1キロを奉仕圏域としているため、常盤台・上板橋地区の範囲で、中央図書館の基本機能が確保できる4,200㎡以上の建物が建設できることを条件に教育科学館などについて検討を行った。

検討の結果、区立図書館全体を俯瞰し、奉仕圏域のバランスが保たれ、延床面積が5,000㎡以上確保できることから、平和公園(都市計画公園 面積約18,600㎡)に公園敷地の10%以下の建築面積で建設することが妥当であるとした。



2. 板橋区立図書館の現状と課題

(1) 板橋区立図書館の現状

1) 板橋区立図書館の管理、運営体制

板橋区立図書館は、中央図書館のほか、地域図書館10館、海外絵本の専門図書館「いたばしBOROニャ子ども絵本館」の合計12館がある。

中央図書館については、窓口業務及び一部施設管理業務を委託し、区立図書館の運営総括や総合調整機能などに対応するため区職員が運営している。

中央図書館と絵本館以外の10館の地域図書館は、指定管理者制度を導入し、民間事業者の3者が指定管理者となり、管理運営を行っている。

図表1 中央図書館と地域図書館の立地



図表 2 中央図書館及び地域図書館の概要

	開館年	住 所	蔵書数 (冊)	座席数 (席)
中央図書館	昭和45年	常盤台1-13-1	214,497	284
赤塚図書館	昭和51年※1	赤塚6-38-1	116,918	81
清水図書館	昭和51年※2	泉町16-16	23,625	32
蓮根図書館	昭和53年	蓮根3-15-1-101	92,256	71
氷川図書館	昭和57年	氷川町28-9	114,018	114
高島平図書館	昭和59年	高島平3-13-1	162,058	157
東板橋図書館	昭和61年	加賀1-10-15	130,004	73
小茂根図書館	昭和63年	小茂根1-6-2	121,579	80
西台図書館	平成3年	西台3-13-2	141,750	110
志村図書館	平成8年	小豆沢1-8-1	131,330	78
成増図書館	平成9年	成増3-13-1	133,379	80
いたばしホローニャ 子ども絵本館	平成16年※3	本町24-1	25,452	20

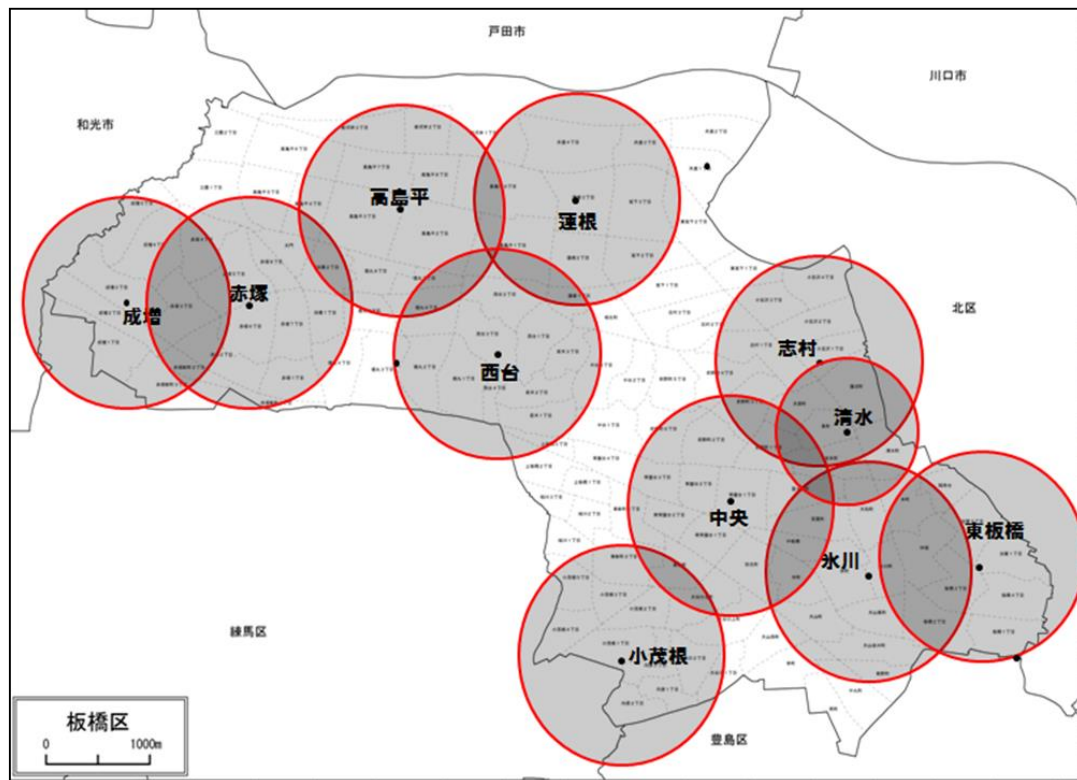
出典：いたばしの図書館（平成27年度版）

※1 平成23年建替

※2 平成22年建替

※3 旧板橋第三小学校校舎内に開設

図表 3 奉仕圏域図



2) 中央図書館の現状

板橋区立中央図書館は、中央機能と地域図書館機能の2つの役割を持ち、図表4の中央機能及び図表5の地域図書館として提供するサービス・事業の企画・実施やとりまとめを行っている。また、読み聞かせなどの図書館ボランティアの登録、育成などを行い、学校図書館などへの派遣を行っている。

図表4 中央機能と概要

機能	概要
① 板橋区立図書館行政の方針決定	・図書館の設置目的を踏まえ、それぞれのビジョン、ミッションの明確化など図書館行政の方針を検討、決定する役割を担う。学校連携事業の方針を決定する。
② 地域図書館の指導・調整	・地域図書館の指定管理者に対してサービス水準維持のためのチェック、指導、各種調整を行う。
③ 全図書館の資料収集の調整	・地域の特色に沿った資料の収集、専門書・参考図書の購入など、総合的に収集の可否を判断し、地域図書館へ助言する。
④ 図書館システムの管理運用	・板橋区立図書館のシステムサーバー管理責任者として適切な管理、運営を行う。
⑤ 施設管理の調整	・区立図書館全体の施設管理について、補修、修繕工事等を総合的、計画的に実施する。
⑥ 行政組織としての管理	・予算、決算事務、図書館システムの運用などを行う。
⑦ 図書館懇談会の設置・運営	・図書館サービスに区民の意見を反映させるため、区が積極的に区民の意見を聞き、意見集約を行う。
⑧ 今日的課題への対応	・ICTを活用した情報収集や、資料のデジタル化など今日的な課題への対応策に取り組む。 ・他の自治体等の連携・情報収集を行う。

3) 地域図書館の現状

地域図書館では、概ね奉仕圏域（図表3）を1km程度とし、区民に身近な地域の図書館として、利用者サービスや図書館事業を提供している。

利用者サービスの維持向上、また、子どもの読書活動の推進、生涯学習に資するサービス、地域連携等のサービス水準を定め、その目標の達成に向けて、各図書館事業を実施している。

図表5 地域図書館として提供するサービス・事業の概要

サービス・事業	概要
利用者サービス	・ カウンターサービス（貸出・返却・予約・レファレンス等） ・ 館内展示、図書館だより ・ 障がい者サービス（資料宅配・郵送・対面朗読） ・ 除籍図書・雑誌の二次利用 ・ 利用者満足度調査 ・ 相互貸借 ・ 資料選定
図書館事業	・ お話し会（児童向け） ・ 映画会（一般向け・児童向け） ・ 学校連携事業 - 団体貸出（調べ学習用資料等） - 図書館スタッフによるブックトーク - 学校図書館ボランティアの紹介 - 図書委員、教職員との懇談会等 1年生の図書館利用者登録幹旋（小学校） - 図書館見学（小学校） - 職場体験（中学校） ・ ミニ・ボローニャ・ブックフェア - ボローニャブックフェア事務局から寄贈された絵本を各館で巡回展示 ・ 地域連携事業 - 児童館、あいキッズ、保育園、児童養護施設、病院、高齢者在宅サービスセンター、健康福祉センター、民間老人ホーム、幼稚園、特別支援学校、大学などへの団体貸出、施設訪問、イベント等への参加 ・ 図書館を使った調べる学習コンクール - 小・中学生が自由研究へとつなげられるよう図書館資料を活用した調べ学習の作品を募集し、優れた作品の表彰を行うとともに、優秀作品を全国コンクールに推薦。各館にて調べ学習をサポートする事業を実施

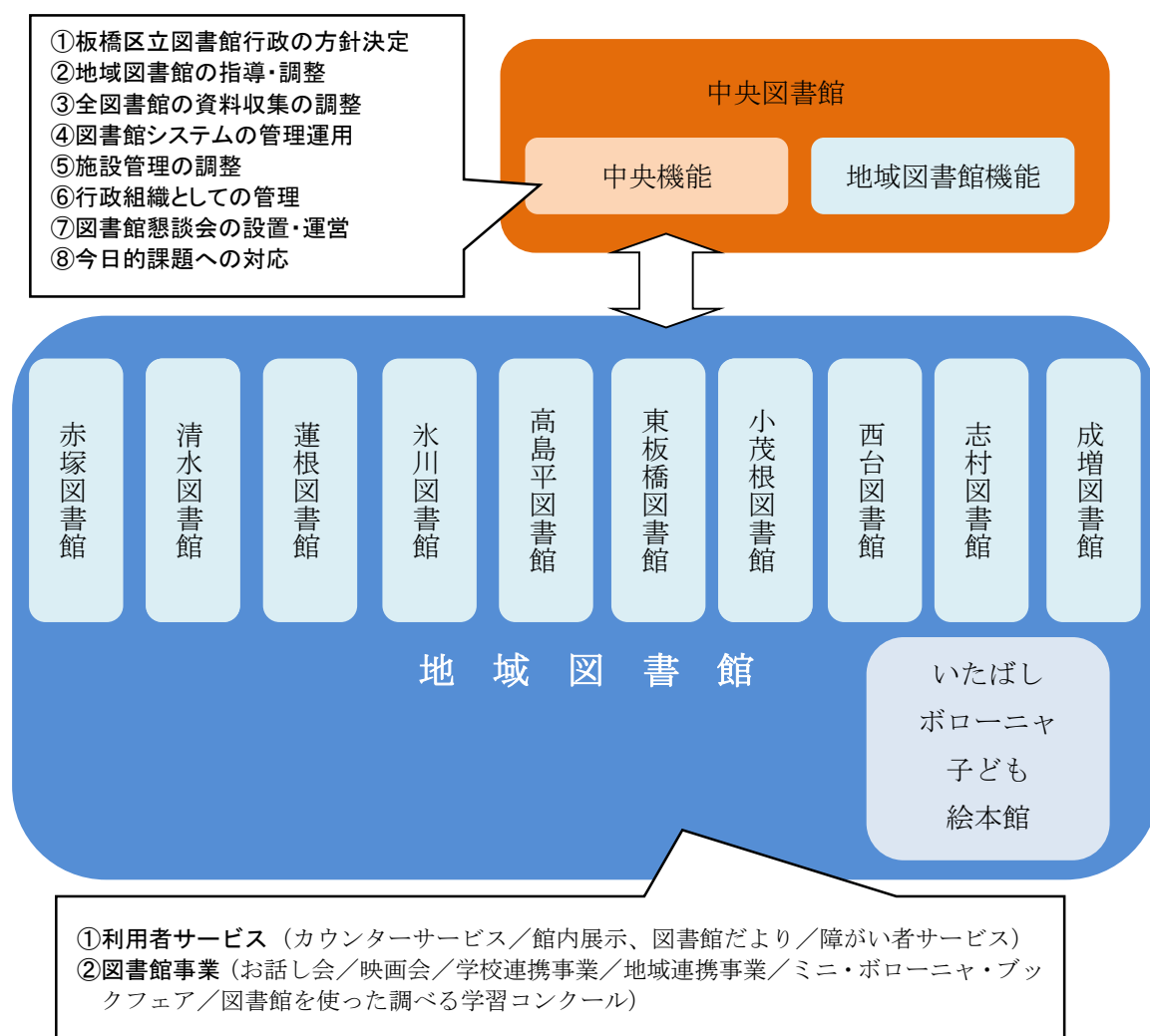
4) 中央図書館と地域図書館との関係性

中央図書館は、区立図書館の中心館として、区立図書館全体のサービスの向上に向けて、区立図書館行政の方針を決定し地域図書館の指導、調整を行っている。

また、区立図書館資料選定基準に沿って、利用者に望ましい蔵書構成にするため、区立図書館全館の図書資料の収集を調整するとともに、地域図書館を補完する専門書などの図書資料を収集、提供を行っている。

各図書館は、図書館システムで結ばれ、全館の資料の状況を他館や自宅からも確認することができる。予約した資料は、全館を巡回する図書館交換便で運ばれ、指定した図書館で受け取ることができる。

図表 6 中央図書館と地域図書館の関係性イメージ



5) いたばしボローニャ絵本館の現状

①いたばしボローニャ子ども絵本館の開館の経緯

板橋区は、平成5年よりイタリアのボローニャ児童図書展から毎年絵本等の寄贈を受けている。その絵本の閲覧施設として平成16年9月に板橋区立図書館の1つとして開館した。

②蔵書数

- ・ 蔵書は25,452冊で86か国、62言語（平成27年3月31日現在）
- ・ 閲覧室には、約8,000冊配架しており、絵本館独自の分類（出版国の大陸別、国別、画家名順）を使用している。

図表7 蔵書の概要

絵本	約22,009冊 (絵本52%、小型絵本20%、知識絵本11%、昔話絵本3%)
その他	芸術、自然科学等の知識の読み物など(14%)

③運営状況

- ・ 休館日と開館時間は以下のとおりである。

図表8 休館日と開館時間

休館日	毎週月曜、毎月末日、年末年始
開館時間	午前10時～午後5時

④主な主催事業

図表9 主な主催事業

事業名	概要
ボローニャ・ブックフェア in いたばし	ボローニャから寄贈された絵本の展示会。合わせて企画展、お話し会などを実施し、海外絵本にふれる機会とし絵本館を広くPRする。
ミニ・ボローニャ・ブックフェア	海外絵本にふれる機会として、ブックフェアをコンパクト化し、各区立図書館で巡回展示を開催している。
いたばし国際絵本翻訳大賞	英語、イタリア語の翻訳コンテスト。中学生部門も設けている。大賞受賞作品については、出版されたものもある。
お話し会	ボランティアによる絵本、紙芝居の読み聞かせを毎週土曜日午前11時から実施している。

(2) 板橋区立図書館の課題

1) 中央図書館の課題

これまでの検討において、中央図書館については以下の課題が指摘されている。

①施設面（ハード）の課題

ア) 建造物

- ・ 建造物は、平成23年度に行った耐震診断調査で I_s 値（耐震指標）が 0.66 であり、躯体自体の耐震性に問題はないが、建築後45年を経過し、老朽化が進んでいる。

イ) 設 備

- ・ エレベーターがないなどユニバーサルデザインへの取り組みが必要となっている。
- ・ 書架棚が高いため、高齢者や小学生低学年では最上段に手が届かない。また、書架棚の間隔も狭く対面通行に支障をきたす箇所が多い。

②サービス面（ソフト）の課題

ア) 収蔵容量と学習環境

- ・ 中央図書館として、幅広い年齢構成の利用者の要望に対し必要な蔵書量とはいえ、高度な専門書やレファレンスに対応する収蔵容量にも不足している。
- ・ 現在収蔵されている蔵書は古くなっているものが多く、日常的に補修や更新などを行う必要が生じている。
- ・ パソコン持ち込みのできる席は2席、インターネット検索できるパソコン設置席は2席と少ない。
- ・ 青少年や社会人などの学習や調べものに供するパソコン設置席や持ち込みのできる席が極端に少ない。

イ) その他支援サービス

- ・ 地下1階に休憩スペースは設置しているものの、喫茶等で利用者同士が交流等のできるスペース、施設がない。
- ・ 児童室は親子で絵本や紙芝居を楽しむスペースが狭い。また、授乳室がない。
- ・ 区内学校行事が重複する場合に、団体貸出のための収蔵冊数が不十分であるなどの地域図書館の課題に対して、学校連携の中心を担う中央図書館機能の役割を十分に果たせていない面がある。

ウ) 図書館システム

- ・ 板橋区立図書館のコンピューターオンラインシステムは、昭和61年10月に開始した。平成16年10月にインターネット検索・予約システム(W e b O P A C)が稼働した。自宅などから蔵書の検索、予約ができ、予約データの

リアルタイム処理により利便性が向上した。現在、資料の予約は、インターネットによる予約が8割となって活用されている。OPACには、インターネットパソコン用(Web OPAC)、携帯電話用(携帯OPAC)、館内利用者端末用(館内OPAC)の3種類があり、①パスワードの登録・変更、②メールアドレス登録・変更、③所蔵資料の検索・予約④予約・貸出状況の確認や貸出期間の延長の機能を提供している。

- ・ 成増図書館にはBDS（ブックディテクションシステム※）ゲートを導入しており、蔵書数に対する所在不明資料数の割合が、他の区立図書館よりも低く、盗難等の抑止効果が現れている。

※貸出処理を行っていない資料が通過した場合、警告音ブザーが鳴る仕組み

- ・ ICタグについては、未導入であり、資料の管理はバーコードによって行っている。

③中央図書館への要望

中央図書館の利用者からのアンケート調査では、下記のような要望がある。

(主な要望)

- ・ 雑誌コーナーの椅子を座り心地の良いものにしてほしい。
- ・ 地下から閲覧席までエレベーター設備を整備してほしい。
- ・ エレベーターなどバリアフリー対応ではないので、階段昇降が大変である。
- ・ パソコンを使える席（スペース）の増加や、インターネット利用室がほしい。
- ・ 学習室がほしい。
- ・ 児童用の絵本の蔵書を増やしてほしい。
- ・ 階段が急なので、照明を明るくしてほしい。
- ・ 自転車置き場のスペースが狭いので、もっと確保してほしい。
- ・ 小中学校の教科書に紹介されている参考図書は、中央図書館に蔵書してほしい。
- ・ 児童室のベビーマット等の備品を充実させてほしい。
- ・ 建物がかなり古い。壁、床ともに古いので建物全体が暗く感じる。
- ・ 建て替えの時期だと思う。新しい図書館をつくってください。
- ・ 休憩スペースを増やしてほしい。
- ・ トイレが臭く、汚いので利用したくない。
- ・ 洋式トイレを増やしてほしい。

2) 地域図書館の課題

地域図書館については、「板橋区立図書館評価委員会」や「図書館利用者満足度アンケート調査」において、下記のような課題が指摘されている。

①サービス水準評価

- ・ 入館者数、貸出点数について、事業者が目標とした数値に達していない図書館がある。図書資料の並べかた、コーナー設置など工夫するとともに利用者のニーズに応えたイベントを実施するなど、さらに、入館者数、貸出点数の増に向けて取り組みの強化が必要である。
- ・ 学校連携事業、地域連携事業については、各館とも積極的に取り組んでいる。

②図書館利用者満足度アンケート調査

- ・ 図書館利用者の満足度は、指定管理者制度導入時、平成22年度77.9%で平成25年度は80.2%と上昇したが、平成26年度は70.1%と7割の方が満足しているものの、満足度は減少傾向にある。
- ・ 項目別では、相対的に評価が低い項目は、「インターネットによる検索・予約システム」(56.6%)、「図書館の広報等PR活動」(65.9%)が挙げられる。

図表10 図書館利用者満足度

項目別		調査年月・サンプル数		
		H22年7月 (赤塚はH23年7月)	H25年2月	H27年3月
		1368人	1599人	1185人
開館日・開館時間	%	92.7%	93.9%	88.8%
	人	1268	1501	1052
図書資料の数や構成	%	68.6%	72.0%	70.0%
	人	939	1151	830
館内の案内表示	%	83.3%	85.6%	83.4%
	人	1140	1369	988
インターネット等による検索・ 予約システム	%	68.2%	72.8%	56.6%
	人	933	1164	671
施設の快適さ	%	85.5%	84.8%	83.9%
	人	1169	1356	994
図書館の広報等PR活動	%	77.3%	77.4%	65.9%
	人	1057	1238	781
総合	%	77.9%	80.2%	70.1%
	延人	6506	7779	5316

なお、区立図書館サービスに対する評価としては、区民アンケート調査結果（参考資料P 89）によると、図書館利用者では、「区民の期待に十分応えている」が15.5%、「まあまあ応えている」が64.7%、合わせると80.2%で、「ほぼ期待に応えている割合」が全体の8割という結果となっている。

3) いたばしボローニャ子ども絵本館の課題

①施設面（ハード）の課題

- ・ 閲覧、調べものをするための閲覧スペースが狭い。
- ・ 書架が高く、見通しが悪く、小学校低学年の児童は、読みたい本があっても手が届かない。
- ・ 蔵書を開架できる十分なスペースがなく、現在、1/3程度の開架なので、豊富な魅力ある絵本を十分に展示できない。
- ・ 海外の絵本という魅力あるコンテンツは豊富であるが、式典・各種ワークショップが開催できるイベントスペースがないため集客に結びついていない。
- ・ 海外の絵本を効果的に紹介する趣向をこらしたサイン配置により、魅力を高める必要がある。

②サービス面（ソフト）の課題

- ・ 貴重な海外の絵本の閲覧を目的とした来館者へ専門的な絵本の紹介を行うことのできる司書等の配置をしていない。
- ・ 学校等への団体貸し出しは実施しているが、一般貸し出しを想定していない。
- ・ 絵本館の魅力を高め、特性を生かした事業、企画展示をさらに研究し、実施していく必要がある。
- ・ 美術館や関係団体等と連携した事業展開を促進する必要がある。



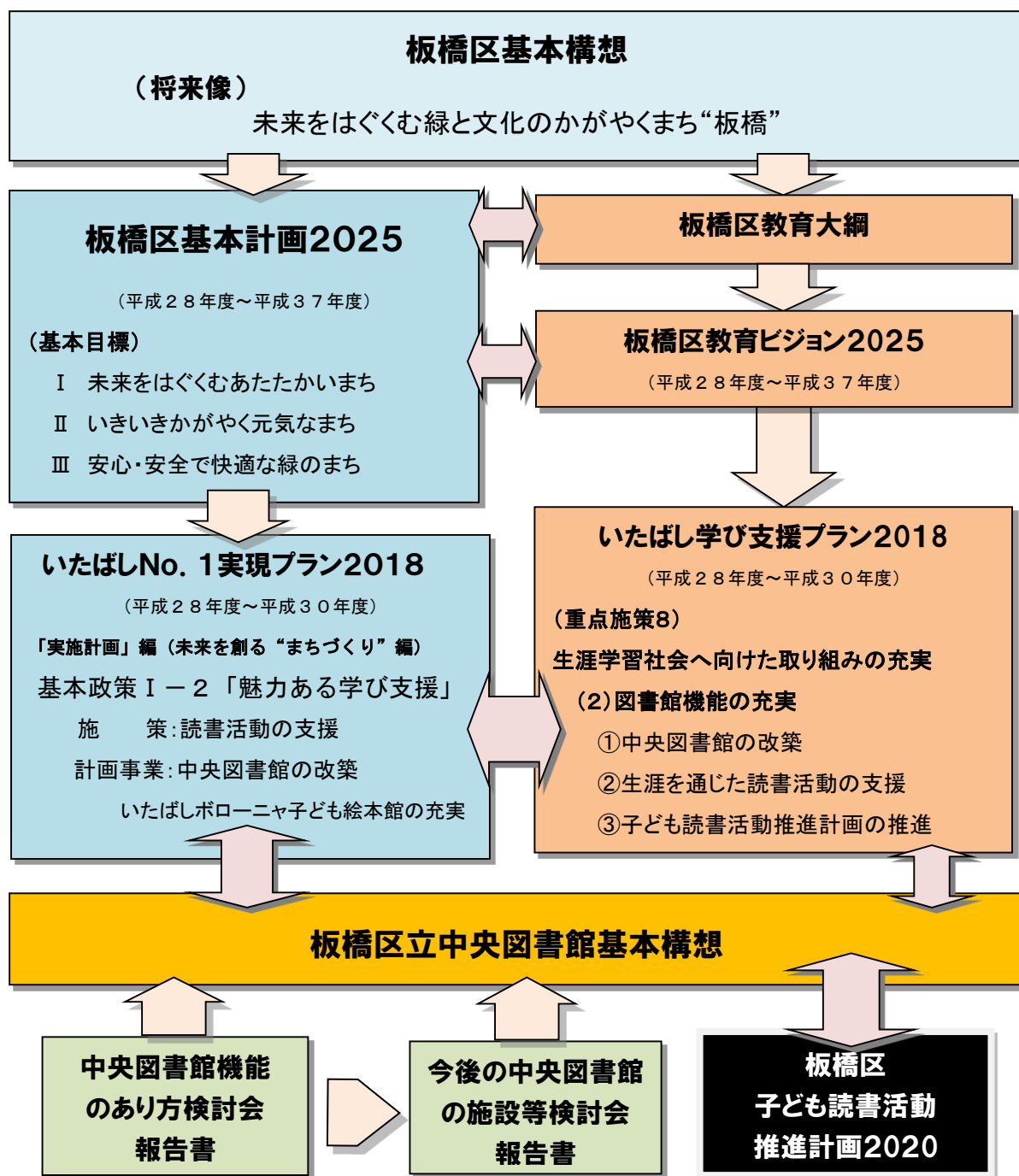
3. 新たな中央図書館について

3-1. 基本理念と重点テーマ

新たな中央図書館の基本理念は、上位計画である板橋区基本構想や板橋区基本計画2025等の内容を踏まえ設定する。

また、新たな中央図書館が取り組むべき重点テーマは、基本理念とともに、「2. 板橋区立図書館の現状と課題」を踏まえ設定する。

図表 1-1 板橋区基本構想等と板橋区立中央図書館基本構想との関係



(1) 新たな中央図書館が目指すべき基本理念

板橋区基本計画2025では、「未来をはぐくむあたたかいまち」、「いきいきかがやく元気なまち」、「安心・安全で快適な緑のまち」の3つの基本目標が掲げられている。

図表12 板橋区基本計画2025の基本目標と新たな中央図書館における機能

板橋区基本計画2025の基本目標		新たな中央図書館における機能
基本目標Ⅰ 「未来をはぐくむあたたかいまち」	未来をはぐくむ <u>子どもたちがあたたかい気持ちで支えられながらすくすくと成長</u> しているとともに、将来にわたって暮らしが充実しているまち	・ 青少年への豊富な資料や場の提供を通じて様々のテーマに関心を持ち、将来の生きる力を高めるきっかけを提供 ・ 学校図書館と連携し、子どもの学習環境を支援 ・ 子育て世帯がゆったりと子育てしながら憩い・交流の場を提供
基本目標Ⅱ 「いきいきかがやく元気なまち」	いつまでも健康でスポーツ・ <u>文化に親しむ</u> ところ <u>豊かなまち</u> であるとともに、産業が元気で <u>新しい価値を生み出している</u> まち	・ 幅広い世代の区民が生涯にわたり読書などを通じて心の豊かさを深める場を提供 ・ 区民一人ひとりの課題解決を支援し、新しい価値の創出を促進 ・ 地域の歴史・文化や友好都市との国際交流を通じ、板橋区の魅力を知る機会を提供
基本目標Ⅲ 「安心・安全で快適な緑のまち」	<u>水や緑に恵まれた豊かな自然を未来へ継承</u> していくとともに、 <u>災害に強く安心・安全で快適な魅力あるまち</u>	・ 区民が板橋区の魅力である水や緑などの自然と調和した環境の中で、読書などを通じて豊かで快適な時間を過ごす場を提供 ・ 耐震性に優れた建物を建築することにより、災害時に情報発信や帰宅困難者の受け入れをする地域の防災拠点を形成し地域の防災活動を支援

また、いたばし学び支援プラン2018では、重点施策の1つとして「生涯学習社会へ向けた取り組みの充実」を掲げており、中央図書館の改築など「図書館機能の充実」を具体的な施策として位置づけている。

こうした関連する計画を踏まえ、本基本構想の理念を定める。

新たな中央図書館の基本理念

未来をはぐくみ、
こころの豊かさと新しい価値を創造し、
“緑と文化”を象徴する図書館

子どもや青少年の未来をはぐくむための読書・学習環境の整備、支援をはじめ、幅広い世代の区民が、読書や様々な活動を通じてこころの豊かさを深め、図書館の資料やレファレンスにより、様々な課題を解決し新しい価値を創造できる場としての新たな中央図書館とする。

また、緑のなかで地域の歴史・文化・資源や友好都市との国際交流を通じ、板橋区の魅力を知ることができる新たな中央図書館とする。



未来をはぐくむ



こころの豊かさと
新しい価値を創造



“緑と文化”を象徴

（２）新たな中央図書館における重点テーマ

基本理念及び中央図書館の現状と課題を踏まえ、新たな中央図書館における重点テーマを以下の５つとする。

① 生涯を通じこころの豊かさを支える図書館

- ・幅広い年代や様々な利用目的の人々のニーズに応えたバランスのとれた蔵書構成、豊富な資料を確保し、あらゆる人々に読書の機会と必要とする情報を提供する。
- ・親子向けイベントや障がい者向けサービスなど利用者の年代や対象に即したきめ細かなサービス、イベント、展示など生涯学習の機会を提供し、新たな知識の発見や豊かな情操をはぐくんでいく。
- ・図書館の利用を促進させる魅力的なイベントや情報発信を行う。
- ・図書館ボランティアや区民のグループなどが様々な活動を通じ、学び合い、自己実現を図っていくことを支援する。



② 課題解決型図書館

- ・区民の生活や仕事などの様々な課題解決をサポートし、新しい価値の創出を促進するため、参考となる資料を充実させる。
- ・利用者が求める情報、資料を迅速に正確に提供するため、図書館職員のレファレンス技能の向上を図る。
- ・東京都や他自治体の図書館との相互貸借や区立施設（櫻井徳太郎文庫、エコポリスセンター等）、区内に立地する大学、区内企業等との連携を強め、幅広い資料、情報の収集、提供を図る。
- ・利用者ニーズやインターネット社会に対応した情報提供を行うため、ICTを活用したレファレンスカウンターの設置やWi-Fi環境の整備を進める。



③ 学校・家庭と連携する図書館

- ・図書館は、次代を担う子どもたちが読書を通じて、読解力や豊かな心を育成していく重要な役割を果たすために、読書環境を整備し、子どもたちの読書活動を推進していく。
- ・図書館が中心となり、家庭、学校、地域と連携して、子どもたちの読書活動推進に向けて計画的な取り組みを進める。
- ・学校図書館との連携を強化し、学校が図書館に求める様々なニーズに対応できる体制をつくる。



④ 地域のコミュニティ形成を支援する図書館

- ・区民のニーズに対応したイベント、講座などの開催や区民が集い、情報交換を行う場を提供することで、地域コミュニティ形成を支援する。
- ・子どもへの読み聞かせ活動などを通じて、子どもや保護者同士、さらに図書館ボランティア等との多世代交流を促進させる。
- ・新たな中央図書館は、耐震性に優れた建物を建築することにより、災害時には情報発信や帰宅困難者の受け入れをするなどの拠点とするとともに、災害に備えて、防災・まちづくりワークショップ等を開催するなど、防災活動を支援していく。



⑤ 板橋の魅力“緑と文化”を象徴する図書館

- ・板橋区の魅力である水や緑などと調和した環境の中で心地よく読書ができる場の提供を行う。
- ・板橋区の郷土史・名所・文化財や区の産業・資源に関する資料や国内外の交流都市の資料の収集と、資料閲覧できる情報提供の場を設ける。
- ・板橋区の友好都市であるイタリアのボローニャ市との交流により寄贈を受けた海外の貴重な絵本の展示イベントを実施するなど、板橋区の魅力を情報発信する。
- ・板橋区平和都市宣言や平和に関する資料、平和公園ゆかりの資料を展示する。
- ・近隣の教育科学館や公園における諸活動と連携し、新たな事業展開を行う。



(3) 今後充実すべき施策の年代層

新たな中央図書館は、基本理念に掲げるように、赤ちゃん対象のブックスタート事業から高齢者の生涯学習まで、あらゆる区民に活発に利用されることを目的に設置するものである。

しかし、区民アンケート調査結果によると、子育て世帯や青少年などの層においては、「図書館のある場所を知らない」、「利用時間の制約」、「気軽に出入りできない」などの理由により利用が十分されていない傾向がみられる。また、板橋区の次代を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ読書活動を推進することが図書館の重要な役割である。

これまで、「子育て世帯」、「青少年」の利用について十分な施策が実施されていなかったことから、新たな中央図書館ではこれらの層を今後充実すべき施策の年代層とし、提供サービス・事業に反映させていく。

また、少子高齢化の進行を背景に、シニア世代が豊富な知識と経験をいかして、他の世代に読み聞かせなどボランティア活動などを行うことで、生きがいも創出できる役割が図書館に求められている。社会的な活動に意欲を持つシニア層（アクティブシニア）についても、今後充実すべき施策の年代層として、様々な活動への参画を促進し活躍の場を提供していく。

図表 1 3 今後充実すべき施策の年代層と施策の考え方

今後充実すべき施策の年代層	施策の考え方
子育て世帯 (子どもと保護者)	・図書館に<u>絵本などを読みを訪れるきっかけとなるよう児童向け図書の充実</u>を図る。 ・子育てを行う区内の保護者が子育てを行いながら、子どもや保護者同士の交流を深めることができるよう、新たな中央図書館においては、<u>読み聞かせコーナーの設置や各種イベント開催などを実施</u>する。
青少年 (中高生)	・青少年に対して積極的に情報発信を行い、「中央図書館に行けば何かが得られる」という期待に応える<u>ヤングアダルトコーナーの充実やICT化による情報検索コーナーの設置、また様々なテーマによる図書や資料の企画展示</u>などを行う。
アクティブシニア (活動に意欲を持つシニア層)	・豊富な知識と経験を持つアクティブシニア層を対象として、ボランティア活動など<u>生涯学習活動や世代交流事業への参画促進</u>を図っていく。 ・シニア層が利用しやすい施設の整備・サービスの提供を行う。

(4) 地域図書館との関係性

1) 新たな中央図書館

- ・新たな中央図書館では、今日的課題に対応する機能を備え、それを実現する明確な目標を掲げるとともに、区内全域での図書館サービス・事業水準の維持・向上に取り組み、板橋区立図書館全体をリードする中央機能をさらに高めていく。
- ・また、地域図書館で収蔵していない専門的な資料の充実をはじめ、多様な図書館サービスを充実し、区内全体にわたる課題への対応や指導・調整の役割を担い、地域図書館を支援していく。

2) 今後の地域図書館

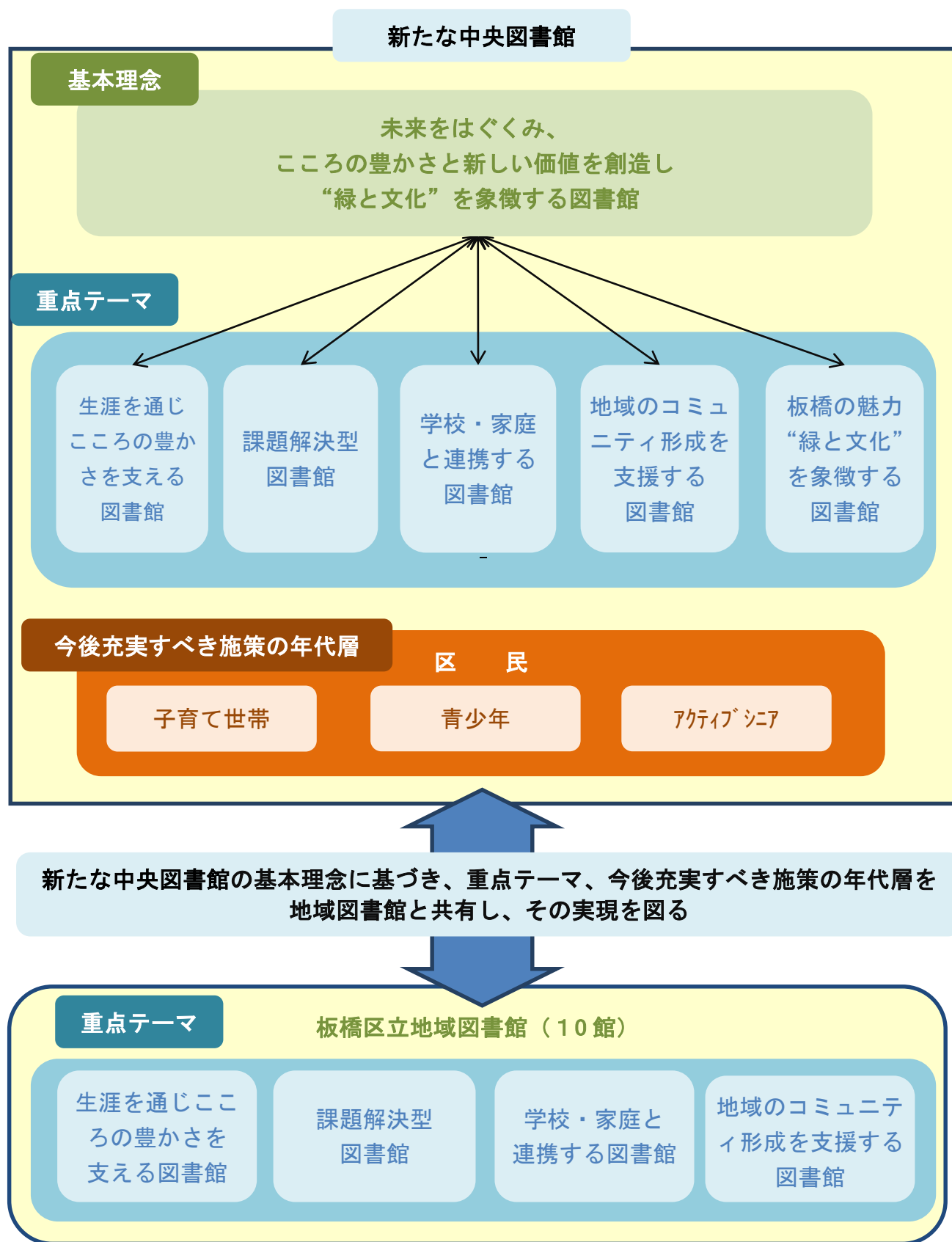
- ・板橋区の地域図書館は、徒歩で、10分前後で歩いて行ける地域の図書館として、今後も区民が身近で、読書へ親しみ、生活に即した様々な課題の解決につながる情報を得ることのできる場とする。
- ・地域図書館では、新たな中央図書館の基本理念に基づき、重点テーマ、今後充実すべき施策の年代層を共有し、その実現を図っていく。

そのなかで、地域図書館として特に取り組むテーマは、下記の4つとする。

- ア 生涯を通じこころの豊かさを支える図書館
- イ 課題解決型図書館
- ウ 学校・家庭と連携する図書館
- エ 地域のコミュニティ形成を支援する図書館

- ・また、他の地域図書館と連携して、図書館サービス・事業水準の維持向上に取り組むとともに、指定管理者の創意工夫により、各種事業の実施や地域特性に配慮した特色ある資料収集、提供を行っていく。
- ・地域図書館では、近年の「読書離れ」などの社会的傾向に鑑み、区民ニーズを的確に捉えた図書資料をそろえ、魅力あるイベントの実施や、SNSを活用した広報活動の強化などにより、入館者数の増加、貸出数の増加をめざしていく。
- ・さらに、地域図書館は、学校や児童館などにおける学校連携、地域連携事業の実施や地域活動の拠点の場とするなど、地域コミュニティの形成に寄与する図書館づくりにも取り組んでいく。
- ・なお、現在、図書館から離れている地域には返却ポストの設置や図書の郵送サービス、図書の団体貸出、イベントの実施などにより、不便解消に努めている。さらなる図書館サービスの充実に向けて、今後、返却ポストの増設や予約カウンター、閲覧コーナー等の設置、また、民間との連携、区民との協働の拡充など新たな整備や運営形態の検討を進めていく。

図表 1 4 新たな中央図書館と地域図書館の関係性



3-2. 管理運営計画

(1) 管理運営の基本的な考え方

1) 新たな中央図書館の管理運営の体制

新たな中央図書館は、板橋区立図書館全体の課題への対応や指定管理者を導入している地域図書館の指導や調整、地域図書館を支援する役割を担っている。

板橋区の図書館行政をリードする役割は区が責任を持って担うべきであるため、新たな中央図書館では、これまでと同様に板橋区職員が直接、管理運営を行うものとする。また、区民懇談会等の実施等により、常に、区民の幅広い意見を取り入れながら、図書館運営を行っていく。

2) 運営条件

①開館時間、休館日

現行の開館時間と休館日は、下表のとおりである。

図表 1 5 開館時間と休館日

開館時間	午前 9 時～午後 8 時 児童コーナー 夕焼けチャイム時間に対応して閉館する。
休館日	毎月第 3 月曜日、毎月末・年末年始・特別整理期間

開館時間については、当面は現行どおりとするが、区民アンケート調査結果などで、延長の要望があることから、開館時間の延長について、検討していく。

なお、児童コーナーは、現行では、夕焼けチャイムの時間にあわせて一般書コーナーよりも利用時間が短くなっている。子育て世帯の子ども連れの保護者などが図書館で過ごせる時間を長くするとともに、勤め帰りの保護者と子どもが来館できるよう、防犯上の観点から、子どもの安全に配慮しつつ、利用可能時間の拡大を検討していく。

また、休館日については、施設・設備の保守・点検や蔵書の整理期間として、毎月 2 回の休館日と年 1 回(6 日間)の特別整理期間が必要であるため、中央図書館については、現行どおりとする。

②貸出・返却・資料管理方法

資料の貸出及び返却は、カウンターにおける対応に加え、現在、他自治体の図書館で導入が広がっている、IC タグや自動貸出機の導入を検討する。また、ブックディテクションシステム(貸出処理をしていない図書がゲートを通ると警告音が鳴る)等の導入を検討し、利用者の利便性の向上や図書館管理の効率化を図るものとする。

(2) 重点テーマ別実施事業

5つの重点テーマに沿って、新たな中央図書館において実施する事業は以下のとおりとする。

図表 1 6 新たな中央図書館で実施する事業

生涯を通じ こころの豊 かさを支える 図書館	①豊富な蔵書構成、図書等資料の充実
	②利用者に応じたきめ細やかなサービス・事業による生涯学習機会の提供
	③図書館利用を促進するためのきっかけづくり (新規)
	④図書館ボランティア活動の場を確保し社会参画の機会を提供
課題解決型 図書館	①課題解決をサポートするためのレファレンスサービスの充実
	②他自治体図書館や関係機関との連携の強化
	③ICTを活用した資料確保とインターネット環境の整備 (新規)
学校・家庭と 連携する 図書館	①子ども向けの資料・サービスを拡充し、読書活動を支援 (新規)
	②家庭・地域・学校と連携した読書活動の推進
	③学校のニーズに対応する図書館サービス、学校連携事業の充実
地域のコミュ ニティ形成を 支援する 図書館	①区民が集い、情報交換を行う場と機会の提供 (新規)
	②利用者同士の多世代交流の場の確保 (新規)
	③災害時の情報発信などの地域の防災拠点形成 (新規)
板橋の魅力 “緑と文化” を象徴する 図書館	①“水や緑”などと調和した心地よく読書できる空間づくり (新規)
	②区の特性となる資料の収集・保存・活用 (新規)
	③いたばしローナ子ども絵本館を活用した事業展開 (新規)
	④教育科学館など近隣施設や公園と一体となった新たな連携事業の実施 (新規)

※ (新規)・・・新規事業

1) 生涯を通じこころの豊かさを支える図書館

① 豊富な蔵書構成、図書等資料の充実

- ・子どもから高齢者まで幅広い年代の読書への要望をかなえる蔵書構成、図書等資料の充実、生涯にわたる読書環境を整備する。

② 利用者に応じたきめ細やかなサービス・事業による生涯学習機会の提供

- ・親子向けイベントや障がい者向けサービス（対面朗読・宅配サービス等）など利用者の年代や図書館利用困難者へ配慮し、あらゆる図書館利用者に応じたきめ細やかなサービス、イベント、展示など生涯学習の機会を提供する。
- ・区内外の知財を活用した幅広い分野のイベント、展示などの開催を積極的に行い、生涯学習の機会を充実させる。

③ 図書館利用を促進するためのきっかけづくり（新規）

- ・現在図書館を利用していない区民に対して、図書館への関心を高めるイベントの開催を行う。（例：クイズラリー・ビブリオバトル※知的書評合戦：参加者が選んだ本の紹介を行い、一番読みたくなった本を投票するイベントなど）
- ・「いたばし図書館会員制度」等を創設して、会員登録者へのメールマガジンの配信やSNS等を用いた図書館情報の発信を行い、図書館利用のきっかけづくりを行う。

④ 図書館ボランティア活動の場を確保し社会参画の機会を提供

- ・図書館ボランティア活動の場を提供し、社会参加を通して自己実現を果たすことを支援する。

2) 課題解決型図書館

① 課題解決をサポートするためのレファレンスサービスの充実

- ・区民の多様な課題に応えられるよう、専門書・参考資料を充実するとともに、レファレンスサービスの専門スタッフの育成を図る。

② 他自治体図書館や関係機関との連携の強化

- ・東京都や他自治体の図書館との相互貸借や区立施設（櫻井徳太郎文庫、エコポリスセンター等）、区内に多く立地する大学、区内企業等との連携を強め、幅広い資料、情報の収集、提供を図る。

③ ICTを活用した資料確保とインターネット環境の整備（新規）

- ・オンラインデータベース等の活用や国立国会図書館のデジタル資料等の多様な情報入手が可能となるよう、情報検索用端末の設置や公衆無線LAN(Wi-Fi)の導入などインターネット環境の整備を進める。

3) 学校・家庭と連携する図書館

① 子ども向けの資料・サービスを拡充し、読書活動を支援（新規）

- ・新たな中央図書館において充実すべき施策の年代層である子育て世帯と青少年の利用を促進し、子どもたちの読書活動を支援するため、幼児、児童、青少年向けの蔵書の充実やイベントを開催する。
- ・子育て世帯が新たな中央図書館に来館しやすくなるよう、防音に配慮するなど、親子や子どもたちが快適に過ごすことができる環境、空間を提供する。

② 家庭・地域・学校と連携した読書活動の推進

- ・「板橋区子ども読書活動推進計画2020」に基づき、子どもの言語や読解力の向上や豊かな心を醸成していくため、家庭、地域、保育園、幼稚園、学校と連携して、計画的に読書活動を推進する事業を実施する。

③ 学校のニーズに対応する図書館サービス、学校連携事業の充実

- ・学校図書館へのボランティアの派遣や資料貸出など学校のニーズに対応できる体制を整えるため、ボランティアの育成や団体貸出用資料の充実を図る。
- ・読書通帳の配布や読書感想文コンクール、図書館を使った調べる学習コンクールなど学校連携事業を通じ子どもたちの読書活動の支援を行う。

4) 地域のコミュニティ形成を支援する図書館

① 区民が集い、情報交換を行う場と機会の提供（新規）

- ・区民の関心が高いテーマ（子育て、趣味、歴史、健康等）について区内大学等とも連携したセミナー等の開催や区民が自主的に集い、情報交換を行う場を提供し、地域におけるコミュニティ形成を支援する。

② 利用者同士の多世代交流の場の確保（新規）

- ・親子お話し会に参加する子どもや保護者と読み聞かせの図書館ボランティア等として活動する地域の中高年層等との多世代交流を促進する。

③ 災害時の情報発信などの地域の防災拠点形成（新規）

- ・新たな中央図書館においては、耐震性に優れた建物を建築し、公衆無線 LAN (Wi-Fi) の導入による災害時の情報発信や帰宅困難者の受け入れなど地域の防災拠点を形成する。また、地域図書館においても、震災などの災害時の対応や地域の課題解決など防災・まちづくりに関するワークショップ等を開催し、地域の活性化、地域ぐるみの取り組みを支援する。

5) 板橋の魅力“緑と文化”を象徴する図書館

① “水や緑”などと調和した心地よく読書できる空間づくり（新規）

- ・屋外テラス、カフェなどの空間を活用し、公園内の緑を感じながら、環境と調和した心地よい読書空間づくりをする。
- ・“緑と文化”に関する企画展示や講演会等のイベントを開催する。

② 区特性となる資料の収集・保存・活用（新規）

- ・板橋区の郷土史、文化財、産業、資源などの地域資料や友好都市の資料などの収集、保存、研究を行い、情報を発信していく。

③ いたばしボローニャ子ども絵本館を活用した事業展開（新規）

- ・併設する「いたばしボローニャ子ども絵本館」の絵本を児童コーナーと連携するゾーンに展開する。
- ・ボローニャ・ブック・フェア in いたばしやいたばし国際絵本翻訳大賞などのイベントを開催し、区民に絵本館の魅力を広くアピールする。

④ 教育科学館など近隣施設や公園と一体となった新たな連携事業の実施（新規）

- ・科学教育の拠点である、近隣の教育科学館や公園における諸活動と連携して、企画展示、イベントの実施など、新たな事業を実施する。

3-3. 施設整備計画

(1) 新たな中央図書館の立地

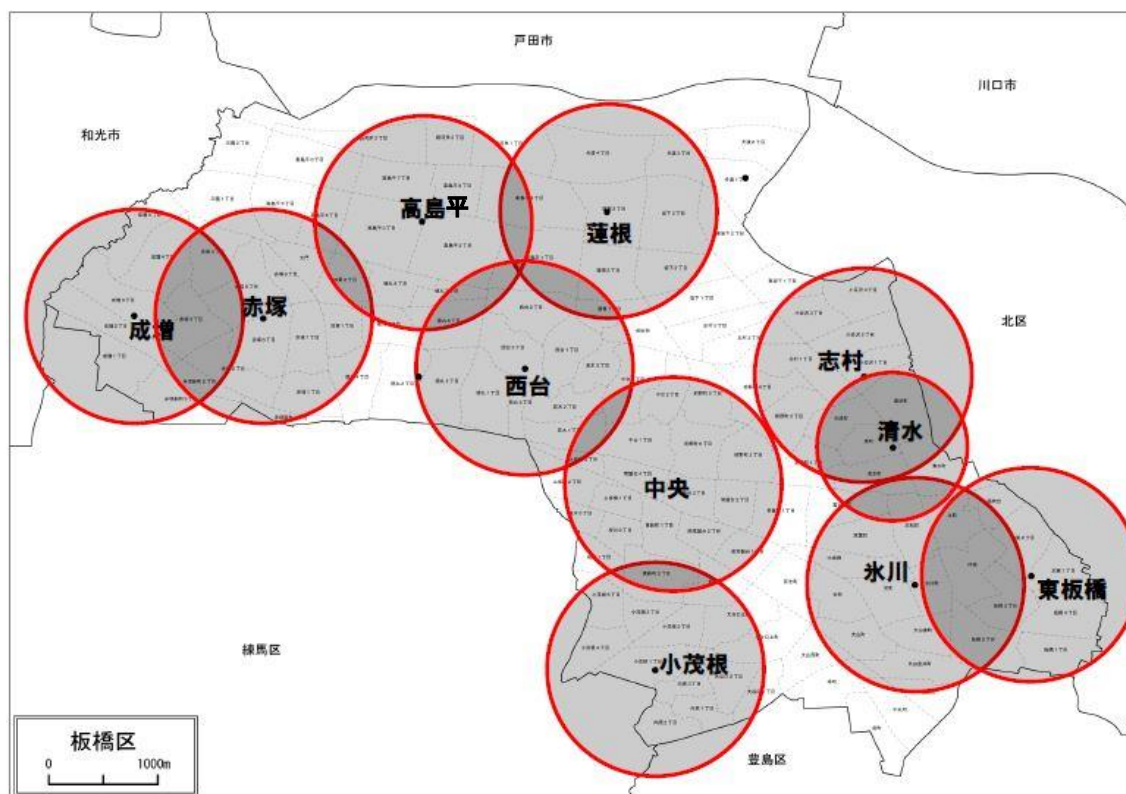
板橋区立図書館の奉仕圏域(半径1km)を考慮し、現中央図書館のエリアには、図書館が必要である。また、中央機能は図書館内に設置することが不可欠であるが、現存の地域図書館には、中央機能を付加できるスペースや早期に改築する予定の地域図書館はない。

この基本構想で掲げる機能を満たす規模の新たな中央図書館の建設場所は、現中央図書館のエリアでは、平和公園以外には見つかっていない。

そこで、日常的に様々な区民が利用する公園内に板橋区立中央図書館を公園と一体的に整備し、立地を生かした、緑あふれる屋外テラスなどの屋内外が利用できる公園内の図書館の整備を計画する。さらに、平和公園については、教育科学館が近接しており、連携した企画展示や子どもから高齢者まで幅広い区民が参加するイベントの実施など、従来の図書館ではできなかった取り組みが可能である。

こうしたことから、平和公園に新たな中央図書館を建築していく。

図表17 新たな中央図書館の奉仕圏域図



(2) 新たな中央図書館の特色となるエリア（機能・サービス）

新たな中央図書館は、板橋区のシティプロモーションの拠点となる図書館として、図書館や区民企画の展示やイベントなどを実施するエリア「いたばしプロモーションギャラリー」を設置し、「板橋区の顔としての情報発信」を行う。

また、心地よい空間で、様々な世代の方々が情報交換や交流をするスペース「いたばしラウンジ」を設置し、「多様な交流によるコミュニティ活性化支援」を進めていく。

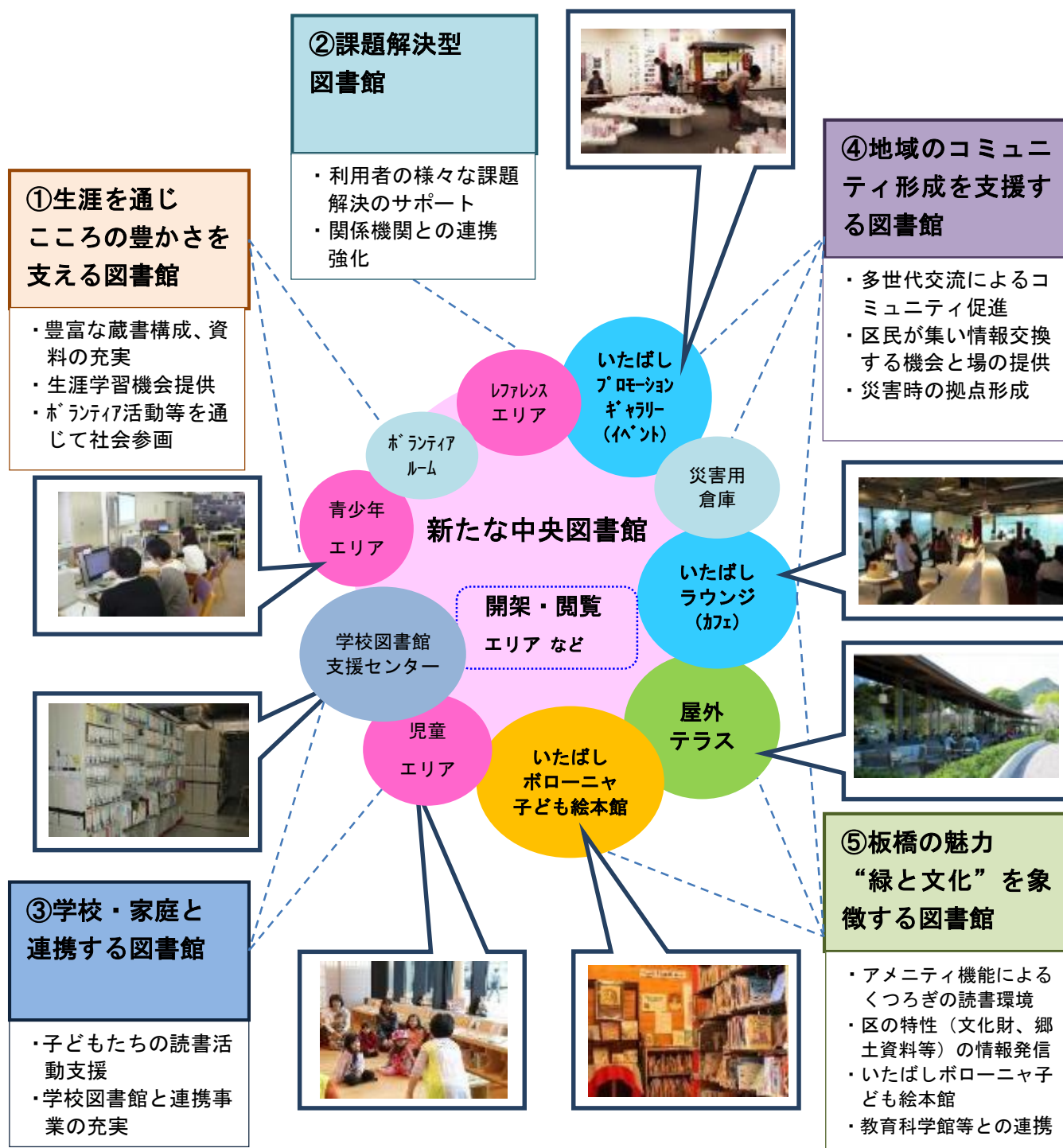
図表 1 8 新たな中央図書館の特色となるエリア

板橋区の顔としての情報発信 ～いたばしプロモーションギャラリー～	多様な交流によりコミュニティ活性化支援 ～いたばしラウンジ～
●板橋区の魅力的な取組みや文化を区内外に発信する情報発信・シティプロモーションの拠点としての機能 ●中央図書館の蔵書やデータベース等を活用し板橋区の魅力を再発見し、学べるギャラリー ●平和公園のイベントと連携した展示、企画事業を実施できるスペース ① いたばしボローニャ子ども絵本館所蔵の外国語の絵本、区内企業、教育科学館との連携事業や区民活動の展示、イベント等を情報発信する。 ② 平和都市「板橋」として、平和資料及び平和公園ゆかりの資料や区民企画の展示や企画事業を実施する。	●アメニティ機能による心地よくくつろぎの空間づくりの実現 ●図書館利用者も公園利用者も共に利用できる空間を提供し、コミュニティ形成に貢献 ●多様な世代・多様な主体（子ども・高齢者・障がい者、学校、大学、NPO、企業等）が交流する場として地域コミュニティ活性化を促進 ① 緑に囲まれた心地よい滞在型図書館の場（カフェ、屋外テラス）を提供する。 ② 多世代交流による集いの場を実現し、地域コミュニティ活性化を支援する。

(3) 新たな中央図書館のエリアと諸室の概要

重点テーマと代表的なエリアの関係は図表19のとおりである。

図表19 重点テーマとエリアの相関図



図表 20 新たな中央図書館のエリアを構成する諸室(コーナー)の概要・イメージ

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
エントランスホール	・総合案内 ・自動貸出機コーナー (ブックディテクション) ・予約資料受取コーナー	・図書館の顔であり、公園と図書館をつなぐ場として、また利用者の待ち合わせなどを行う場としての空間 ・コンシェルジュカウンター機能を総合案内と一体化 ・自動貸出機コーナーや予約資料受取コーナー等を配置し、利用者の利便性に配慮 ・各機関からのパンフレット、案内チラシを配布するコーナー等を設置し、利用者がいち早く各種情報を収集できるよう工夫 ・Wi-Fiなどを導入し、全館で公衆無線LANの利用を実現

<事例>



金沢海みらい図書館・総合カウンター



高崎市立中央図書館・自動貸出機・予約本コーナー

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
レファレンスエリア	・レファレンスカウンター ・レファレンス用資料コーナー ・データベース活用コーナー（情報検索用パソコン利用）	・相談用のカウンターを設け、利用者の課題解決に向け、情報・専門資料を提供 ・図書や情報検索などができるデータベース活用コーナー等と一体的に利用ができるように配慮

<事例>



葛飾区立立石図書館・レファレンスカウンター

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
開架・閲覧エリア	・一般閲覧席 ・一般書コーナー ・推薦図書コーナー ・多言語資料コーナー ・ビジネスコーナー ・特色ある資料コーナー（平和資料、地域情報、友好都市資料等） ・新聞、雑誌コーナー ・CD等メディアコーナー	・図書館全体が見渡せる配置 ・低めの書庫（手の届きやすさ）、通路幅を確保（通行の容易さ）など、利用者の利便性に配慮 ・おすすめの図書の紹介コーナーなどを配置 ・一般書に加え、特色ある資料など重点テーマコーナーを設置 ・窓際など明るい場所で、一人ひとりが図書を閲覧できるコーナーや閲覧席を設置 ・長時間の閲覧利用にも疲れないように配慮 ・新聞、雑誌コーナーでは、新聞を広げられる閲覧台などや雑誌のバックナンバーの配架なども配慮 ・CD、DVD等の貸出、視聴が可能な空間

＜事例＞



静岡県立中央図書館

・ゆとりのある開架閲覧室



会津若松市立会津図書館

・閲覧コーナー

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
いたばしボローニヤ 子ども絵本館	・海外絵本の開架スペース ・絵本企画展示コーナー	・板橋区の魅力を発信する機能と位置づけ、板橋区で収蔵する海外の絵本が閲覧できるスペース ・絵本の企画展示なども実施 ・企画展示については、プロモーションギャラリーとの共用も想定（ブックフェア等の実施）

<事例>



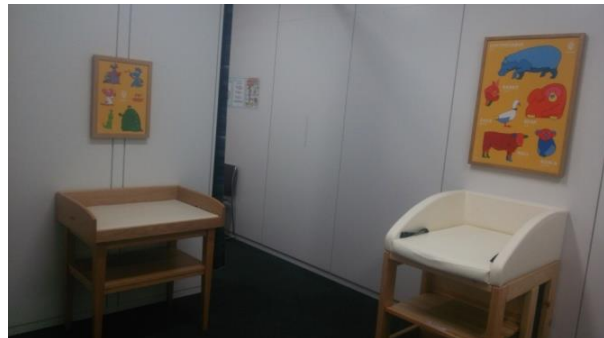
堺市立中央図書館・絵本作家の展示

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
児童エリア (防音)	・ 児童書・絵本コーナー ・ 読み聞かせコーナー ・ 子育て支援情報コーナー ・ 「赤ちゃんの駅」コーナー	・ 児童コーナーでは、小学生の取りやすい高さなどの書架を設置 ・ 靴を脱いで利用できる読み聞かせスペース、親子で過ごせるコーナーと連携 ・ 小さい子どもから家族連れで本を楽しむ空間を確保 ・ 子育て世帯の母親・父親も安心して利用できるよう防音などを施した空間を確保 ・ 子育てに関する雑誌やパンフレット情報が得られるコーナー ・ 「赤ちゃんの駅」は①オムツ替え場所の提供、②授乳の場所の提供、③ミルク用のお湯の提供（水道水沸かし湯）、④手洗い設備の完備

<事例>



牧之原市立榛原図書館・児童図書コーナー



板橋区役所南館・赤ちゃんの駅

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
青少年エリア	・ヤングアダルトコーナー ・学習室（I C T、グループ）	・ヤングアダルトコーナーは、様々なテーマによる展示等を行い青少年の関心を高める工夫を実施 ・青少年がパソコンなどを用いて資料検索などができるコーナー等を設置 ・学習スペースと近いゾーンに配置し、青少年の多角的な学習活動を支援

<事例>



杉並区立南荻窪図書館・ヤングアダルトコーナー 川口市メディアセブン・ワークスタジオ

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
ハンディキャップサービスエリア	・ 対面朗読室 ・ 大活字本、点字資料コーナー	・ 障がい者、高齢者向けのサービスを提供し、誰もが安心して利用できる環境を確保 ・ 大活字本や点字資料等も配架 ・ サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）の登録・活用

<事例>



武蔵野プレイス・対面朗読室

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
書庫エリア	・ 閉架書庫 ・ 学校図書館支援センター（学校図書館貸出用資料用閉架書庫）	・ 多様化する区民ニーズに合致する蔵書数を中央図書館として収蔵できる規模の書庫を確保 ・ 資料の利用頻度や形態に合わせ機能的な運営が可能な方法で配置 ・ 学校図書支援のための資料保管庫を設置

<事例>



中野区立中央図書館・児童書閉架書庫

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
いたばしプロモーションギャラリー	・多目的室 ※ギャラリー、視聴覚室、研修室等、多目的に利用 ・平和に関する資料等の常設展示	・基本的には多目的（マルチパーパス）に利用できるスペース ・映画の試写、グループ学習等での利用やイベントや展示での利用ができるスペースとし、エントランスホールや公園との連携も可能な位置に配置 ・地域住民の交流活動を行う空間として活用。 ・ワークショップなどを開催し、地域課題解決の場などにも活用 ・平和公園設置の経緯、区平和都市宣言などパネルを展示

<事例>



金沢海みらい図書館・ギャラリー



千代田区立日比谷図書館・セミナールーム

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
いたばしラウンジ	・休憩コーナー ・屋外テラス ・カフェ	・喫茶等を行いながら、読書等が楽しめる空間 ・利用者が気軽に談話・交流ができる空間として滞在型図書館としての魅力を向上 ・公園に近いゾーンに配置し、一体的な利用を実現

<事例>



北区立中央図書館・喫茶室



伊万里市民図書館・くつろぎコーナー

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
地域連携エリア	ボランティアルーム 災害用倉庫	・図書館ボランティア等の活動が可能な空間を確保し、図書館事業の活性化促進 ・災害に備えた備蓄倉庫を設置

<事例>



武蔵野プレイス・サポーターズルーム

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
事務エリア	・スタッフ控室 ・図書館便交換室 ・選書室 ・整理集配室 ・作業スペース	・職員がそれぞれの業務に従事する空間 ・資料の荷解きや配送、選書や整理を行う空間 ・各諸室に作業スペースを設置

エリア	諸室（コーナー）の構成内容	諸室（コーナー）の概要
共用部エリア	・トイレ	・ユニバーサルデザインに配慮 ・多目的トイレの設置 ・ベビーキープ、おむつ替台等の設置
	<事例>  小布施町立図書館まちとしょテラソ・多目的トイレ	
	・倉庫・バックヤード	・各種設備や備品を収納 ・図書の搬入時の荷捌き空間 ・作業スペースを確保し、閉架図書や事務室との動線に配慮
	<事例>  富山市立図書館本館・配本室	
	機械室（電気室）	・電気、空調、配水等の設備・機械を設置
駐車場・駐輪場		・来館者向け、配送車用の駐車、駐輪ができる空間

(4) エリアの構成諸室と重点テーマの関係

新たな中央図書館に必要なエリア及びエリアを構成する諸室（コーナー）と重点テーマとの関係を表にまとめ整理する。

図表 2 1 新たな中央図書館の構成諸室（コーナー）

エリア	エリアを構成する諸室（コーナー）	重点テーマ				
		生涯	課題	学校	地域	魅力
エントランスホール	・総合案内（コンシェルジュカウンター） ・自動貸出機コーナー（ブックディテクション） ・予約資料受取コーナー	○	○	○	○	○
レファレンスエリア	・レファレンスコーナー ・レファレンス用資料コーナー ・データベース活用コーナー（情報検索用パソコン利用）	○	○	○	—	—
開架・閲覧エリア	・一般閲覧席 ・一般書コーナー ・推薦図書コーナー ・多言語資料コーナー ・ビジネスコーナー ・特色ある専門資料コーナー（平和資料、地域情報、友好都市資料等） ・新聞、雑誌コーナー ・CD等メディアコーナー	○	○	○	○	○
いたばしBOROニャ子ども絵本館	・海外絵本の開架スペース ・絵本企画展示コーナー	○	—	○	—	○
児童エリア（防音）	・児童書・絵本コーナー ・読み聞かせコーナー ・子育て支援情報コーナー ・「赤ちゃんの駅」コーナー	○	○	○	—	—
青少年エリア	・ヤングアダルトコーナー ・学習室（ICT・グループ）	○	○	○	—	—
ハンディキャップサービスエリア	・対面朗読室 ・大活字本、点字資料コーナー	○	—	—	—	—

エリア	エリアを構成する諸室（コーナー）	重点テーマ				
		生涯	課題	学校	地域	魅力
書庫エリア	・ 閉架書庫 ・ 学校図書館支援センター（学校図書館貸出用資料用閉架書庫）	○	○	○	—	—
いたばしプロモーションギャラリー	・ 多目的室 ※ギャラリー、視聴覚室、研修室等、多目的に利用	○	○	○	○	○
いたばしラウンジ	・ 休憩コーナー ・ 屋外テラス ・ カフェ	○	—	—	○	○
地域連携エリア	・ ボランティアルーム	○	—	○	○	—
	・ 災害用倉庫	—	—	—	○	—
事務エリア	・ スタッフ控室 ・ 図書館便交換室 ・ 選書室 ・ 整理集配室					
共用部エリア	・ トイレ、多目的トイレ ・ 倉庫・バックヤード ・ 機械室（電気室）					
駐車場・駐輪場						

(5) 蔵書計画

1) 蔵書規模

① 新たな中央図書館の蔵書数 開設時の目標値 32万冊以上

板橋区立図書館全体の蔵書数は、約138万冊で特別区立図書館の中で第8位である。また、板橋区民の人口一人あたり蔵書数では2.53冊で特別区中18位である（出典：平成27年度東京都公立図書館調査）。

そこで、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて 平成24年8月 文部科学省」（以下、平成24年8月文部科学省基準）で示された図書館サービスの指標の例に基づき、蔵書冊数の目標値 を人口1人あたり3.165冊とする。

区立図書館全体の蔵書数の当面の目標値は、区の人口規模（550,758人（平成28年1月住民基本台帳））から、174万冊とする。

$$\begin{aligned}\text{蔵書数の目標値} &= \text{人口1人あたり蔵書冊数} \times \text{板橋区人口} \\ &= 3.165\text{冊/人} \times 550,758\text{人} \\ &= \text{約174万冊}\end{aligned}$$

なお、特別区の図書館では、台東区が人口あたり蔵書数2.92冊/人で、特別区中12位であり、特別区の平均水準である。

図表22 板橋区立図書館の蔵書数

単位：冊数

	児童書	全体	児童書割合
板橋区立図書館全体	293,535	1,381,414	21.2%
中央図書館	40,930	214,497	19.1%
地域図書館合計	252,605	1,166,917	21.6%

※いたばしボローニャ子ども絵本館除く

出典：いたばしの図書館（平成27年度版）

区全体の蔵書数の目標値174万冊は、現在の138万冊から、約36万冊蔵書増やす必要がある。今回、建設する新たな中央図書館では、このうち、現行21万5千冊収蔵しているので、開設時には、約10万冊増やし、32万冊以上を蔵書する。

② 新たな中央図書館の児童書の蔵書数の目標値 9.6万冊

児童書の割合は板橋区全体では21.2%となっているが、特別区全体では24.1%（出典：平成27年 東京都公立図書館調査）となっている。

新たな中央図書館では、子育て世帯を充実すべき施策の年代層としていることを踏まえ、児童書の割合を30%とする。

$$\begin{aligned}
\text{児童書の蔵書数の目標値} &= \text{蔵書数全体} \times \text{児童書の割合} \\
&= \text{約} 32 \text{ 万冊} \times 30\% \\
&= \text{約} 9.6 \text{ 万冊}
\end{aligned}$$

※現在、中央図書館には児童書が約4.1万冊、いたばしボローニャ子ども絵本館には約2.5万冊収蔵されている。

③新たな中央図書館の開架図書の蔵書数の目標値 21万冊

開架図書についての目標値は、開架図書の割合を乗じて以下のとおりとする。

$$\begin{aligned}
\text{開架図書の蔵書数の目標値} &= \text{新たな中央図書館の蔵書数} \times \text{開架図書割合} \\
&= \text{約} 32 \text{ 万冊} \times 66.0\% \\
&\quad (\text{平成} 24 \text{ 年} 8 \text{ 月文部科学省基準}) \\
&= \text{約} 21 \text{ 万冊}
\end{aligned}$$

2) 貸出数

新たな中央図書館の貸出数の目標値 58万冊

板橋区は、人口あたり貸出数6.00冊で特別区中21位である。

そこで、区全体の貸出数の目標値は、特別区の人口あたり貸出数 平均8.24冊／人（平成27年 東京都公立図書館調査）を基に、区の人口規模から、453万冊とする。

$$\begin{aligned}
\text{区全体の貸出数の目標値} &= \text{人口1人あたり貸出数} \times \text{板橋区人口} \\
&= 8.24 \text{ 冊／人} \times 550,758 \text{ 人} \\
&= \text{約} 454 \text{ 万冊}
\end{aligned}$$

なお、特別区の図書館では、杉並区が人口あたり貸出数8.07冊／人で特別区中12位、平均水準である（出典：平成27年度東京都公立図書館調査）。

図表23 板橋区立図書館の貸出数

単位：冊数

	板橋区立図書館	中央図書館
年間貸出数合計	3,022,452	398,411
一般	2,106,097	283,934
児童	916,355	114,477
1日平均貸出数	835	1,215

出典：いたばしの図書館（平成27年度版）

区全体の貸出数の目標値の約454万冊は、現在の約302万冊に対して、約50%増やす必要があるため、新館における貸出数の目標値は、58万冊とする。

$$\begin{aligned}
 \text{新たな中央図書館における貸出数の目標値} &= \text{現在の貸出数} \times \text{増加率} \\
 &= 398,411 \text{ 冊} \times 150\% \\
 &= \underline{\text{約} 58 \text{ 万冊}}
 \end{aligned}$$

3) 入館者数

新たな中央図書館の入館者数の目標値 80 万人

板橋区は、人口あたり入館者数 5.7 人で特別区中 13 位である。特別区の中では標準的な水準にある。

来館者数の目標値は、貸出数の目標値を達成するための観点から貸出数の増加率 50% に合わせて、目標を定める。

$$\begin{aligned}
 \text{貸出数の増加を想定した新中央図書館の入館者数の目標値} \\
 &= \text{現在の入館者数} \times \text{増加率} \\
 &= 418,205 \text{ 人} \times 150\% \\
 &= \underline{\text{約} 63 \text{ 万人}}
 \end{aligned}$$

図表 2-4 板橋区立図書館の入館者数

単位：人

	板橋区立図書館	中央図書館
年間入館者数合計	3,112,377	418,205
1 日平均貸出者数	795	1,275

出典：いたばしの図書館（平成 27 年度版）

新たな中央図書館は、図書の貸出目的以外にも新たな利用の促進を図ることをめざしている。新たな利用者として区民の約 3 割の方に年間 1 回は新中央図書館に来館してもらうことを目標とする。

$$\begin{aligned}
 \text{新たな利用者を想定した新中央図書館の入館者数の目標値} \\
 &= \text{板橋区人口} \times \text{新規来場率} \\
 &= 550,758 \text{ 人} \times 30\% \\
 &= \underline{\text{約} 17 \text{ 万人}}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \text{新たな中央図書館の入館者数の目標値} &= \text{約} 63 \text{ 万人} + \text{約} 17 \text{ 万人} \\
 &= \underline{\text{約} 80 \text{ 万人}}
 \end{aligned}$$

(6) 新たな中央図書館の施設規模面積

新たな中央図書館の施設規模については、5つの重点テーマからエリアと構成諸室を提案し、そのエリア規模を以下のとおり想定する。

各エリア規模を積み重ねると、延床面積としては、およそ4,500～5,500㎡程度を確保する必要がある。

図表25 新たな中央図書館の施設規模面積

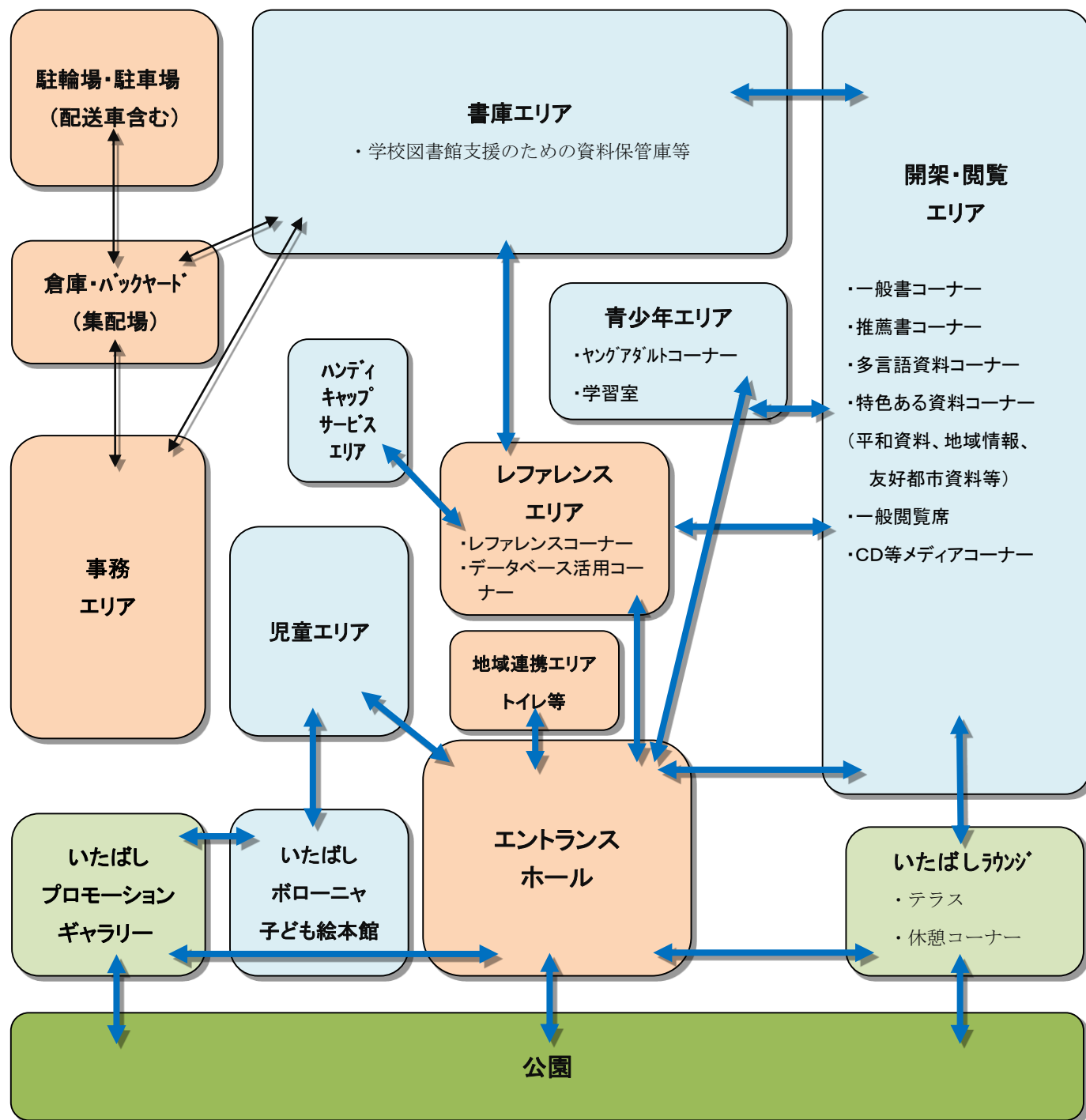
エリア	規模イメージ
エントランスホール	150㎡程度
レファレンスエリア	200㎡程度
開架・閲覧エリア	1,500㎡程度
いたばしボローニャ子ども絵本館	150㎡程度
児童エリア	150㎡程度
青少年エリア	100㎡程度
ハンディキャップサービスエリア	50㎡程度
書庫エリア	350㎡程度
いたばしプロモーションギャラリー	250㎡程度
いたばしラウンジ	100㎡程度
事務エリア	200㎡程度
共用部エリア（災害用倉庫、機械室等を含む）	適宜
駐車場・駐輪場(250台程度)	適宜

各エリアや構成する諸室の面積の内訳については、今後、敷地条件などを踏まえ、基本計画、基本設計を行う中で具体的に精査を行う。

(7) 新たな中央図書館における諸室配置（ゾーニング）の考え方

今後、こうした諸室の配置を検討していくうえでは、諸室間において関連エリアへの移動がスムーズになるよう、ユニバーサルデザインに配慮した動線づくりによるゾーニングが必要になる。今後、敷地条件を踏まえながら、各諸室利用者の利便性が向上するよう配置計画を策定していく。

図表 2 6 諸室間のゾーニングの考え方
(太線矢印：利用者 細線矢印：スタッフ)



3－4．新たな中央図書館の実現に向けて

(1) 事業スケジュール

新たな中央図書館の実現に向けた今後の事業スケジュールは以下を想定している。

図表 2 7 今後の事業スケジュールの想定

	実施内容
平成 2 8 年度	基本計画、基本設計
平成 2 9 年度	実施設計
平成 3 0 年度～ 3 1 年度	建設工事
平成 3 2 年度	平和公園に移転し、開館

(2) 実現に向けた課題

新たな中央図書館の実現に向けた課題は以下が挙げられ、今後、関係者との協議を進めながら、検討を進めていく必要がある。

1) 移転先及び配置プラン

新たな中央図書館の移転先については、平和公園内を想定している。公園内の建築場所については、近隣の住宅への影響や公園の利用状況、樹木の保全、防災面の機能の確保など十分考慮しながら、検討していく。

2) 実施事業の計画

施設整備と並行して、「3－2．管理運営計画」に挙げた重点テーマ別実施事業について、より具体的な事業計画を検討する必要がある。新たな中央図書館の施設計画、事業の実施体制や予算なども考慮し、区民アンケート調査結果など区民ニーズに応え、新たな中央図書館の役割を達成すべく、実現可能な計画として整理していく。